



Title : 注文の多い図書館

❖ 社会学のロングセラー

大館市立中央図書館の新作図書コーナーに懐かしい本を発見しました。講談社現代新書の、中根千枝著「タテ社会の人間関係」。70年代社会学部生の必読書ではありませんか（古い話ですみません）。奥付を見ると改訂もなしに121刷！発行が1967年ですから、半世紀近く前の本が未だに現役というか、内容が古びていないということでしょう。すごいですねえ。もっとも装丁は4代目となる現行のものに変わっています。初期はビニールカバーだった現代新書の創刊は64年（昭和39年）。東京オリンピックの年だったんですね。今年は50周年の記念の年です。

同じ64年に発表・出版された小説を見てみると、三浦綾子「氷点」、小松左京「復活の日」、山田風太郎「魔界転生」、中井英夫「虚無への供物」、児童書では松谷みよ子「ちいさいモモちゃん」などが並びます。意外と古びていないような気がしますが、古いですか？ちなみに歌謡曲では、美空ひばり「柔」、都はるみ「アンコ椿は恋の花」、バーブ佐竹「女心の唄」、井沢八郎「ああ上野駅」、ペギー葉山「学生時代」…うーむ、こっちは古い。けど、懐かしい。

本の話に戻って64年発行といえ、社会性格論という分野を開拓した名著のリースマン「孤独な群衆」。原著は50年発行ですが、加藤秀俊の訳によるみすず書房版が64年発行です。いまだに新装版で発売されているこの本、中央図書館には74年の19刷があります。社会科学に関心のある若い人は読んでください。閉架書庫にありますので、カウンターに申し付けてください。古くても名著、基本書はなるべく所蔵を続ける。これも図書館の役目です。

❖ 基本書の充実のために

ということで、市民の皆さんにお願いです。各々の仕事や関心領域について、なんでこの図書館にはあの基本的な本がないんだ、と思うことはありませんか。私にはあります。でも、だからこの図書館はダメなんだと思っているだけでは、何もよくなりません。そういう思いをぜひ図書館に伝えてください。必ず購入するとは言えませんが、なるべく揃えるよう努力はします。基本図書を揃えることは専門家である図書館員の仕事だろうと思われるかもしれませんが、まったくその通りです。ですが、どんな図書館員も森羅万象に通じているわけではありませんし、特に先端科学や技術畑になると得意でない者も多いのです。

図書館は市民のニーズを先取りして、蔵書を整え提供していくべきだというのは実にもっともな意見です。それでも、人間のやることに限界があることを直視し、市民・利用者の皆さんに協力を求めたいと思います。図書館の顔、というか内実は、その蔵書によって表現されます。何度でも言いますが、一緒に図書館をつくっていきましょう。その意味で、大館市立図書館は市民への「注文の多い図書館」であり続けたいと思います。（陽）

【赤ちゃんにも利用カードを】この4月から、未就学児への利用カード発行を行っています。0歳児からカードをつくれますので、小さなお子さんをお持ちの保護者の方、ぜひつくってください。お金はかかりません。そして、絵本やおはなしの本をたくさん読んであげてください。上手である必要はありません。お母さんやお父さんの声で、心を込めて読んであげることが大事なのです。

